



■被災地出張授業……2013年 12月9日

高校生に期待する —自己改革を図る—

講師：浦野 光人 元副代表幹事・2013年度連合との共同研究PT 委員長（ニチレイ 相談役）

2013年12月9日、IPPO IPPO NIPPONプロジェクトによる被災地出張授業が、宮城県水産高等学校で行われた。今回は、浦野光人元副代表幹事が講師を務め、全校生徒約400名を前に「高校生に期待する」と題し、学び続けることの大切さを語った。



自然や人々から影響を受けても 自己変革は自分自身でしかできない

地球には人類だけでなく、多くの動物や植物も暮らしています。地球はすべての生き物の生活の場です。より便利に、より快適にと人類の都合だけを考えるのは自分勝手です。地球環境問題を考える場合、人間はもっと謙虚にならなくてははいけません。

自然だけでなく、人々に対しても謙虚になるべきです。皆さんが勉強できるのは、お父さん、お母さん、先生方をはじめ多くの人々が支えてくれているからです。

私たちの毎日の生活は、多くの人の協力によって成り立っています。しかし、本当に自分を磨くことは自分自身でないとできません。吉野源三郎氏が書いた『君たちはどう生きるか』という本があります。そこに「僕たちは自分で自分を決定する力を持っている。だから誤りから立ち直ることもできるのだ」という一節があります。ここには、自然や人々に感謝しながらも、究極には一人で生きていくのだという決意が込められています。周りの人から影響を受けながらも、本当に自己変革をするには、自分の力だけが頼りだということです。

自分の“現在地”を知り 本物に触れる経験を積む

今、日本にはさまざまな課題が山積んでいます。しかし、柔軟性に富んだ若い皆さんなら、きっと日本を良い方向に変えられると信じています。

まず皆さんに知ってほしいのは、自分の“現在地”です。現在地とは、自分の今の力量ということです。

勉強やスポーツで「あの人のようになりたい」という憧れの人は、いわば目的地です。では、現在地はどうか。それが分かれば、目的地との間にどれほど差があるか、どうしたら差を縮められるかがおぼろげに見えてきます。

では、どうやったら自分の現在地が分かるのでしょうか。自分を知り、方向性を決める方法として、「SWOT分析」があります。自分の強みと弱み、外界の機会と脅威を洗い出して行う分析手法です。こうしたものを活用すると自分の現在地が分かります。

自分の現在地が分かれば、次は本物に触れてください。パリには多くの芸術家の卵が集まります。なぜならパリには、本物の絵画を収蔵した美術館が多いからです。ブラジルの少年は自国の一流選手のプレーを見て、「自分もあなりたい」と憧れ、技を磨きます。

「出藍しゅつらんの誉れ」という言葉があります

が、皆さんには、自分の師を追い抜いて飛躍して行ってほしいと願っています。

情報はうのみにせず 批判的に受け入れる

インターネットが発達し、スマートフォンなどを使って「つながる」ことが容易になりました。そんな時代だからこそ、あえてつながらないことの意義も知ってほしい。ウェブにつながれば、どんなことでもすぐに分かります。長く端末に触れていると、ウェブの情報や意見が、あたかも自分が考えたことのように錯覚してしまう。これは危険です。

自分の頭で考えることが大切だと思います。その結果がウェブ上にある意見と同じというのならいいのです。何も自分で考えず、ウェブ上の意見に同調するのは良くない。情報の吟味や捨選択も自己変革と同じで、最後は自分一人で決断をせねばならないのです。

この高校では朝の10分読書をしていると聞きました。読書は主体的に本にかかわる行為です。情報を批判的に受け入れることを、ぜひ学んでほしいと思います。

勉強は、学生時代より、むしろ社会に出てからの方が必要になります。だからこそ今は、学ぶ姿勢をしっかりと身に付けてほしいと願っています。



生徒との質疑応答

Q 就職に当たり、どのような気持ちで臨めばいいですか？

A 就職先を決めるまでは、ぜひ自分のやりたい仕事を追求してほしい。船や漁のこと、食品のこと、あるいはそれ以外のこともあるかもしれませんが、各自が興味のある分野を追い求めてください。

就職先が決まった後は、論理的に仕事に臨んでほしい。学校で学んだことを具体的に仕事に活かせる場面は少ないかもしれませんが、しかし、筋道を立てて答えに迫るといった考え方は、どんな会社でも活かせます。また、入社したからには「他にもっといい仕事がある」などと思わず、その仕事を全うしてほしいです。

Q 社長になって良かったことと嫌なことのどちらが多いですか？

A 両方ともいっぱいあります。社長は「偉い」と思われているようですが、そうではありません。世の中にはいろいろな役割があって、社長もその一つにすぎません。社長だからといって、その会社のすべての仕事ができるわけでない。それぞれの専門家が協力して会社全体を動かします。社長の仕事は、皆が100%実力を発揮できる環境づくりです。

具体的に嫌だったことは、食品に毒物が混入される事件があり、その対策に追われたこと。課題を一つひとつクリアにしていきました。嫌な思い出であると同時に、貴重な体験でもありました。

Q 企業では、どのような人材が求められるのですか？

A 協調性がある人、コミュニケーション力がある人、行動力がある人な

ど、いろいろとありますが、全部を満たす人はいません。あえて一つ挙げるとすると「課題を発見できる人」です。例えば、お客さまの隠れたニーズを発見することです。お客さまは、何となく「不便だな」と感じているレベルでは「困った、何とかしてくれ」と明確に声を上げません。そうした潜在的な課題を見つけられる人は、そこを改良してお客さまを喜ばせることができます。この能力は、どの企業でも通用するでしょう。自分の得意分野を知り、「これだけは誰にも負けない」というくらい、その能力を磨いてください。

生徒の感想

●将来の目標は二級海技士を取得することでしたが、先日四級の試験に落ちてしまいました。そんな時、この講義があり、これからの私に一番必要なものを見つけました。それは「自分の現在地を知る」ということです。これからは自分のレベルと立場を理解し、上を目指すことを忘れないように頑張ります。

●今回の講義の中では“Cool head, but warm heart”という言葉に感銘を受けました。目的に対する熱意がある一方で、しかし頭は冷静に行動するというような心の持ち方は、私がこれからの人生を歩む上で、大切な考え方だと感じました。私は大学を卒業した後、高校の教師になろうと考えています。大学で本物の技と心に触れ、そこで培った知識や技術、経験を次世代の子どもたちに伝えていきたいと思っています。

●私が一番心に残っているのは、「みんなに支えられているが、人に頼るな、一人で勝負」ということです。来年からは東京で一人暮らしをしなくてはなりません。今回の話を聞いて、大学に進学できたのは両親などいろいろな人に支えられたからだ、あらためて思いました。でもこれからは、何でも一人で頑張らなければと思います。

●地球誕生の話に魅了されました。自分を磨くという話題にも感銘を受け、特に、失敗を恐れず、取りあえずやってみるといった言葉は、今でも一言一句記憶しています。

●印象に残っている言葉は「君たちが将来を担う」という言葉です。その言葉の重みを感じました。少子・高齢化が進み、税金の負担が大きくなっています。その中で僕たちは頑張らなければなりません。今回の話で将来のことをあらためて考えるきっかけになりました。

●今回の講座で、社会ではどのような人間が必要なのか、どのようにすれば成長できるのかを理解させられました。大人というのは「他人のために面倒を引き受ける覚悟を決めた人間、責任を取ることをいとわない人間」と教わりました。自分もそんな大人になりたいと思います。今回の話が自分の道標になればいいと思います。

●私の将来の夢は、魚市場で働きながら石巻を復興させることです。震災の時はまだ中学3年生でしたが、地元の水産業は壊滅的な被害に遭いました。私は思いました。この石巻を復活させたい。これは自分の意思であり、部活もボランティア部に入り、復興を支援してきました。そして、石巻魚市場に就職します。前よりももっと良い石巻にしたいと思っています。